

# きらめき

発行  
東北情報インフラユニオン  
仙台市若林区新寺一丁目2番7号  
TEL:022-297-5196  
FAX:022-297-5198  
発行責任者:村上 良智  
編集責任者:齊藤 慎也

## 事故事例を教訓に人身事故の再発防止に努めよう!!

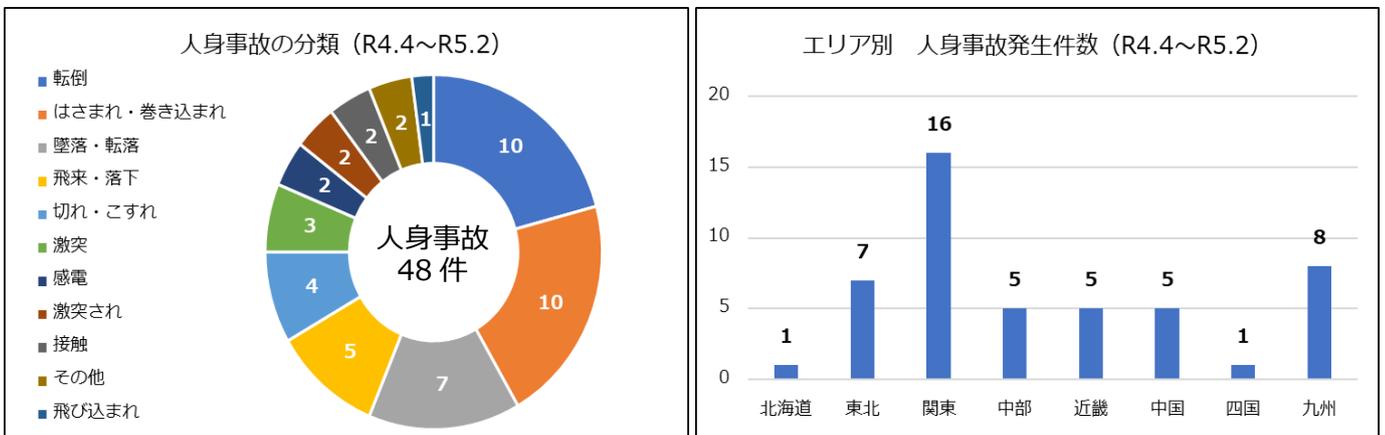
今年度は、全国的に人身事故の発生に歯止めがかからない状況にあり、1月10日には静岡県富士宮市において、電柱建て替え工事の際に電柱と穴建車に作業員が挟まれる重大人身事故（死亡事故）が発生しております。現場作業にあたっては、これまで発生した事故を「対岸の火事」と捉えることなく、個々人が作業手順の重要性を再認識し、近道行動や不安全行動を発見したら注意を行い、安全で安心して働ける職場作りに取り組むことを強く要請します。

以下に2022年度下期に全国で発生した事故概要をまとめましたので、KY実施時に班員の皆様と共有を行う等、同種の事故防止に向けご活用願います。

### <2022年度下期の人身事故発生状況（令和4年10月～令和5年2月）>

No	発生日	発生場所	事故の型	発生事由
1	R4.10.1	東京都	激突され	舗装切断作業中に保安状況の点検を行った元請社員が工事予告板（50m先工事中）の向きが悪いのを発見し設置し直そうとし、看板を外し電柱に立て掛けた時に工事予告板がバランスを崩し車道に倒れ走行してきたバイクの運転手の太ももに接触
2	R4.10.3	宮崎県	切れ・こすれ	台風14号の広域支援実施中、故障修理でスパイラルハンガ外れを修復するため、邪魔になる竹の伐採作業中に竹の切り口部分で右手人差し指を負傷
3	R4.10.14	神奈川県	飛来・落下	柱上での故障修理中、やり取り綱により工具バッグを引き上げた際に工具バッグが傾き、3mの高さからモンキーレンチが作業者の背中に落下
4	R4.10.17	青森県	接触	足場上で軒天の鋼板をバールで撤去していた所、撤去した鋼板が左手首に接触し負傷
5	R4.11.2	福島県	転倒	お客様事務所内の配線ルートを確認するため、脚立を使用して天井にある点検口内を確認中にバランスを崩し、高さ1.85mの地点から脚立と共に転倒
6	R4.11.2	福井県	切れ・こすれ	エンジン更改工事において、鉄筋工が現場作業での移動中、耐圧盤に打ち込まれている鉄筋を踏み、左足裏を裂傷
7	R4.11.25	愛知県	巻き込まれ	とう道内の酸欠警報の暫定対処のため、送風機を設置し空気循環させようとした際、指先が送風機の羽根（金属製）に当たり負傷
8	R4.11.28	鹿児島県	墜落・転落	工事完了後の山頂からのヘリ荷物搬出の際に、ホバリングしているヘリが風に煽られ上昇し、ヘリの荷物に引っかかってしまった作業員も1-2mの高さまで上昇したのち落下。更に着地後に転倒し、数メートル滑落
9	R4.12.5	埼玉県	転倒	光開通工事中に脚立から降りようとして高さ80cmから転倒し右手をついて負傷
10	R4.12.9	秋田県	接触	高規格道路新設に伴う支障移転工事（基盤）の土留め取付け作業中に土留めのため設置していた矢板が倒れてきて作業員の左肩に当たり負傷

No	発生日	発生場所	事故の型	発生事由
11	R4.12.10	東京都	激突され	歩道部舗装本復旧作業において、アスファルト合材の敷き均し中、バックホウが後退し、歩行者誘導をしていた交通誘導員と接触し負傷
12	R4.12.20	新潟県	転倒	大雪影響による停電により、基地局電源救済へ向かう準備中に、車両に機材等を乗せ終わり、後部ハッチを閉める際足元の雪で滑って転倒
13	R5.1.10	静岡県	飛来・落下	電柱建替工事で共架柱の抜柱作業中、穴掘建柱車にて電柱を吊り上げた際、穴掘建柱車の前方が浮き上がり電柱が倒れ、操作者が挟まれた【死亡】
14	R5.1.10	福岡県	転倒	建物維持管理業務の清掃作業において、作業員が廃棄段ボールを持って階段を移動中、足を踏みはずし転倒
15	R5.1.12	千葉県	巻き込まれ	X線検査機定期点検作業の試験運転中にチェーンにあて布が巻き込まれてしまったため慌てて運転停止したが、一緒に指先が巻き込まれて負傷
16	R5.2.1	群馬県	はさまれ	太陽光発電所の建設中における太陽電池パネル搬入時、梱包状態から1枚ずつ取り出す際に、半数ほど取り出したところでパネルのバランスが崩れ、作業員1名が倒れてきたパネルの下敷きとなり負傷



全国で発生している事故を種類別で見ると「転倒」「はさまれ・巻き込まれ」がそれぞれ10件と各21%程度、次いで「墜落・転落」が7件で15%を占めており、この上位3項目は昨年度と同一の種別となっていることから、同種の事故が繰り返し類似発生している状況となっております。

今年度は東北管内においても断続的に人身事故が発生し、エリア別の発生件数も多くなっております。また、東北で発生したいずれの事故も一歩間違えば重大事故に繋がりがかねない事故であり、引き続き、労働組合の立場で事故の教訓や再発防止策の風化防止に向けた取り組みの強化を図ることとしますが、発生している事故の要因・原因を見れば作業員自身の近道行動や不安全行動等、作業手順の誤りに起因するものが多く発生しております。

年度末を迎え、今後はさらなる繁忙状況が予想されます。決して慌てることなく、現場環境を踏まえた安全作業に努め、もう二度と我々の職場からは事故を発生させないためにも「安全は何よりも優先する」との考えのもと、自社で発生した事故は勿論のこと他社で発生した事故についても今一度ご確認頂くとともに、事故を決して「対岸の火事」とすることなく個人が「自分の職場からは事故は発生させない」との強い気持ちで作業に従事して頂き、日々皆さんの帰りを待っている家族のもとへ「笑顔」で帰りましょう。

インフラ東北としても2月28日まで通建連合「労働安全衛生強化期間」として安全労働確立に向けた取り組みを展開しております。引き続き、取り組みへのご協力をお願い致します。

**無事故で家族のもとへ「笑顔で帰ろう！」**